

令和6年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：NPO 法人 ESUNE

1 事業のタイトル

大谷・小鹿における協創プラットフォーム構築に向けたコミュニティリーダー発掘・育成事業

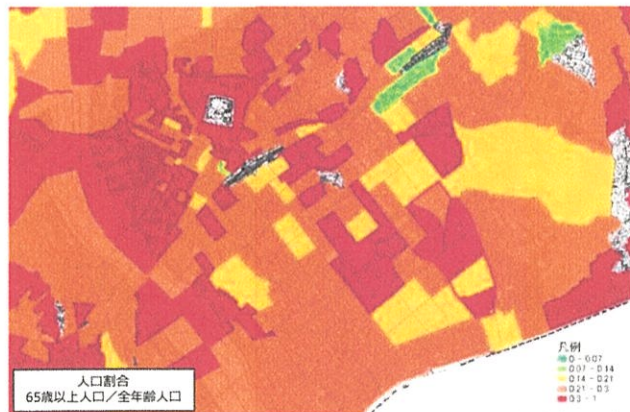
2 背景・現状 (事実に基づきデータなどを用い、現在の静岡市にどのような問題があるのかを

本事業の対象エリアとなる静岡市駿河区大谷・小鹿地区は、平成25年3月策定「大谷・小鹿地区まちづくりグランドデザイン」と令和6年3月策定「大谷・小鹿周辺地区まちづくりビジョン」に基づき、再開発が進む地区である。交流施設エリア、工業・物流エリアなどの整備により、今後、多様な事業者や観光客が訪れ、活気ある地区となることが期待されている一方で、現状次の4つの問題点が挙げられる。

①地区内の高齢化と独居化による社会的孤立リスクの増大

令和2年度国勢調査によれば、深刻な高齢化は進んでいないものの、65歳以上の独居率は7.3%と、主要な大谷・小鹿・片山だけでも1,000人弱の65歳以上単独世帯が存在している。加えて、静岡大学が立地するため一人暮らしの大学生が多く居住する地区でもあり、駿河区平均40.0%と比べても10point以上独居率が高い地区(59.0%)である。

ゆえに、南海トラフ地震をはじめとした自然災害発生時の逃げ遅れなど、社会的孤立リスクが他地区に比べて増大しやすい。



出典：国勢調査(令和2年)

大字・町名・字・丁目名	地区数	人口(男)	人口(女)	外国人口	外国人口比率	世帯数	世帯あたり人口(一人暮らし)	65歳以上単独世帯	独居率	高齢者独居率
駿河区						96295		38501	10127	40.0%
大谷・小鹿・片山	23372	12244	11128	640	2.7%	12525	1.87	7381	972	59.0%
小鹿合計	14033	7366	6667	453	3.2%	7350	1.90	4290	645	58.1%
小鹿	7356	4046	3310	219	3.0%	41		266	65.6%	6.5%
小鹿 一丁目	3198	1537	1661	69	2.2%	14		183	45.2%	12.4%
小鹿 二丁目	1908	918	990	73	3.8%	9		135	46.6%	14.2%
小鹿 三丁目	1571	865	706	92	5.9%	843	1.86	61	37.4%	7.2%
片山	114	58	56	2	1.8%	56	2.04	29	6	51.8%
大谷合計	9225	4920	4405	185	2.0%	5079	1.82	3062	266	60.3%
大谷	6771	3601	3170	154	2.3%	4042	1.68	2710	197	67.3%
大谷 一丁目	697	353	344	20				18	33.4%	5.8%
大谷 二丁目	830	425	405	5				18	37.3%	5.1%
大谷 三丁目	927	441	486	6				33	31.2%	8.8%

(小鹿)
高齢者独居率
平均以上一人暮らし社会人
& 大学生が多い地域

②自治会・町内会役員の高齢化・単年度交代化によるコミュニティの力の衰退

全国的な傾向同様、自治会・町内会の高齢化が進み、加えて地区によっては役員が単年度交代のため、前例踏襲型の自治会・町内会運営が行われやすく、コミュニティの力の衰退が懸念される。本来、①であげた社会的孤立リスクへの対応は自治会・町内会組織に期待されるが、組織的な新たな取り組みを生み出しにくい状況にある。

③新たな居住者の増加時に起きうる「新住民問題」のリスク

再開発により大規模な物流センターや工場、企業等が進出することで、雇用増加に伴う大谷・小鹿地区内の居住者が増加することが予想される。しかし、既存住民と新住民との関係性が深まらず、対

立構造や相互に無関心構造に陥ってしまう「新住民問題」が起きる可能性が十分考えられる。それにより、地区内の関係性の希薄化による防犯力の衰退、治安の悪化などが誘発される可能性が高い。

④再開発をきっかけとした新たなまちづくりへ参画する住民の少なさ

大谷・小鹿地区まちづくり検討会議にて、新たなまちづくりビジョンの検討・策定を進めてきたが、検討会議自体に参画する住民は限定的であり、まちづくりに対する住民の他人事（ひとごと）化が進んでいる可能性が高い。

3 目指す状態・成果（現状に対して、どのような状態になっていることが社会の理想的な姿か、明確に記載してください。）

住民を中心とした様々な主体が、大谷・小鹿地区の未来のまちづくりに参画し、より良い暮らしを創造し続けている状態。具体的には、

- ・「自分たちのまちを、自分たちでつくる」という自治の想いを持った住民の成長と多様なまちづくり活動が生まれている
- ・住民、企業、自治体、大学、NPO、学校、PTA、農家など、大谷・小鹿地区に関わる様々な主体（ステークホルダー）が、お互いが良いパートナーシップでまちづくりを推進している
- ・社会的孤立状態の住民が少なく、むしろ豊かな社会関係資本が醸成される地区へと進化している

4 社会的課題（「2 背景・現状」と「3 目指す状態・成果」を比較し、目指す状態に至らない理由や問題点を明確に記載してください。）

課題1：コミュニティの希薄化と社会関係の脆弱さ

2で指摘したように、自治会・町内会役員の高齢化や単年度交代化によって、コミュニティとしての力が衰退する可能性が高く、それゆえに自治会・町内会活動が十分行われないことにより、コミュニティの希薄化、それに伴い孤立化やまちに対する他人事化が進展すると予測される。

自治会・町内会に限らない社会関係を結び、キーパーソンとなる主体同士のネットワーキングが今後重要になるといえる。

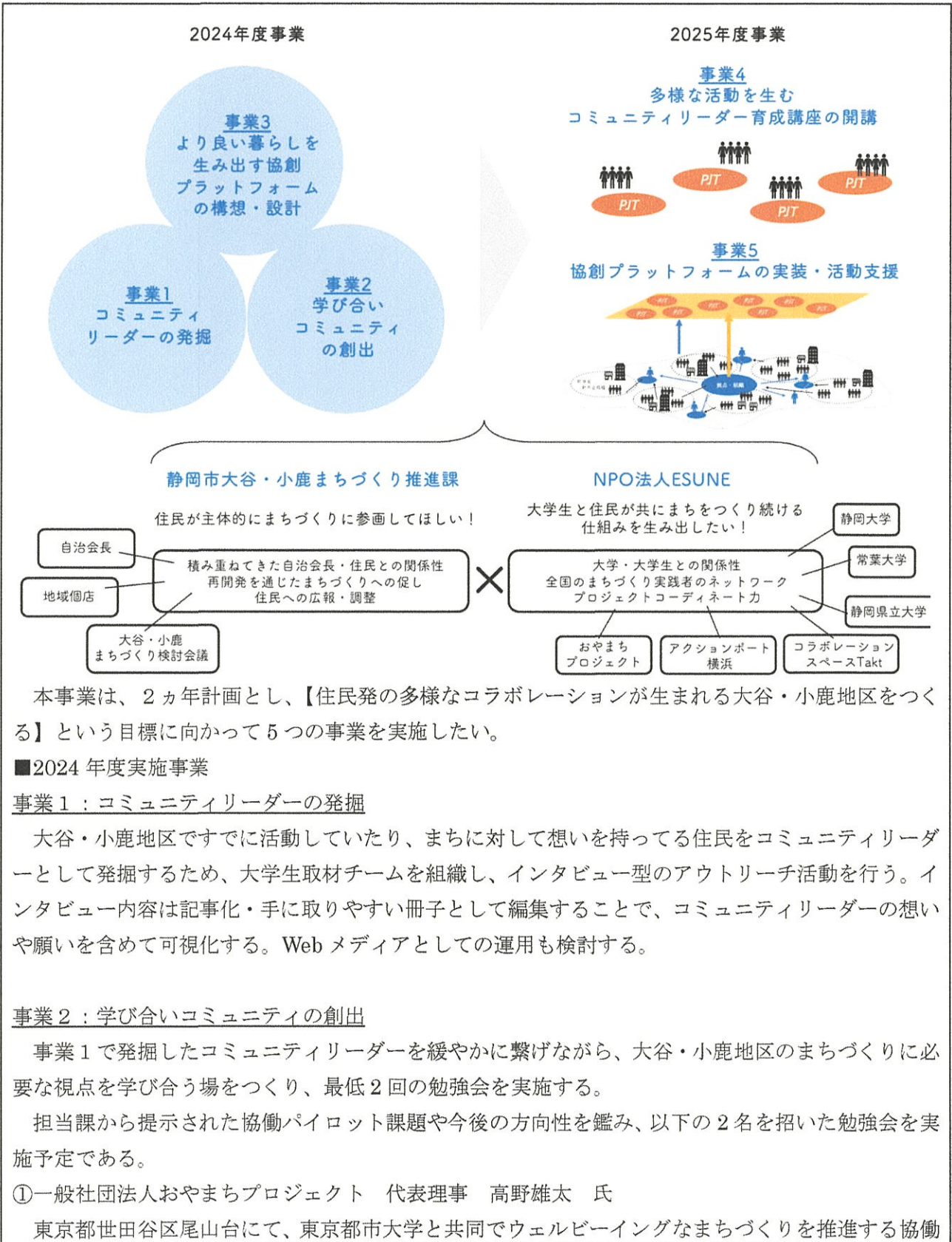
課題2：今後のまちづくりをリードし得るコミュニティリーダーの不在

キーパーソンとなる住民で、今後のまちづくりをリードし得るコミュニティリーダーが、本事業において協働する大谷・小鹿まちづくり推進課も「見えない」と感じるほど、可視化されていない。住民の主体的なまちづくりへの参画を実現するには、アウトリーチを行いながらのコミュニティリーダーの発掘と育成が今後急務となる。

課題3：住民をはじめ、多様なステークホルダーが「参画してみたい！」と思えるようなプロジェクトや活動の創出するコーディネート機能の不足

特定の組織に参画することは大きなハードルであるため、期間限定のプロジェクトやゆるやかで開かれた活動に参画する機会を、大谷・小鹿地区内に多様に生み出すことが重要ではあるが、現状そのような機会が少ない。その機能を地区に実装する必要がある。

5 事業の概要 「4 社会的課題」で掲げた課題の解決をするために、どのような事業を提案するのか及びその成果指標について、「3 目指す状態・成果」の内容を踏まえて記載してください。）



プラットフォームを運営。尾山台を舞台にした多様なプロジェクトをコーディネートしており、その方法や学びを共有いただく予定である。

②NPO 法人アクションポート横浜 代表理事 高城芳之 氏

神奈川県横浜市を中心に、若者と NPO・地域団体をつなぐ NPO インターンシップを企画・運営。左近山団地で活動する大学生の取り組みなど、大学生が地域に入ることによる変化やその生み出し方の方法や学びを共有いただく予定である。

※進捗によっては別の講師を招く可能性がある。

事業 3：より良い暮らしを生み出す協創プラットフォームの構想・設計

本協働事業における提案課題である「交流プラットフォーム」にあたる、大谷・小鹿でより良い暮らしを生み出す協創プラットフォームのイメージを構想し、2025 年度の実装に向けた具体的な計画を設計する。

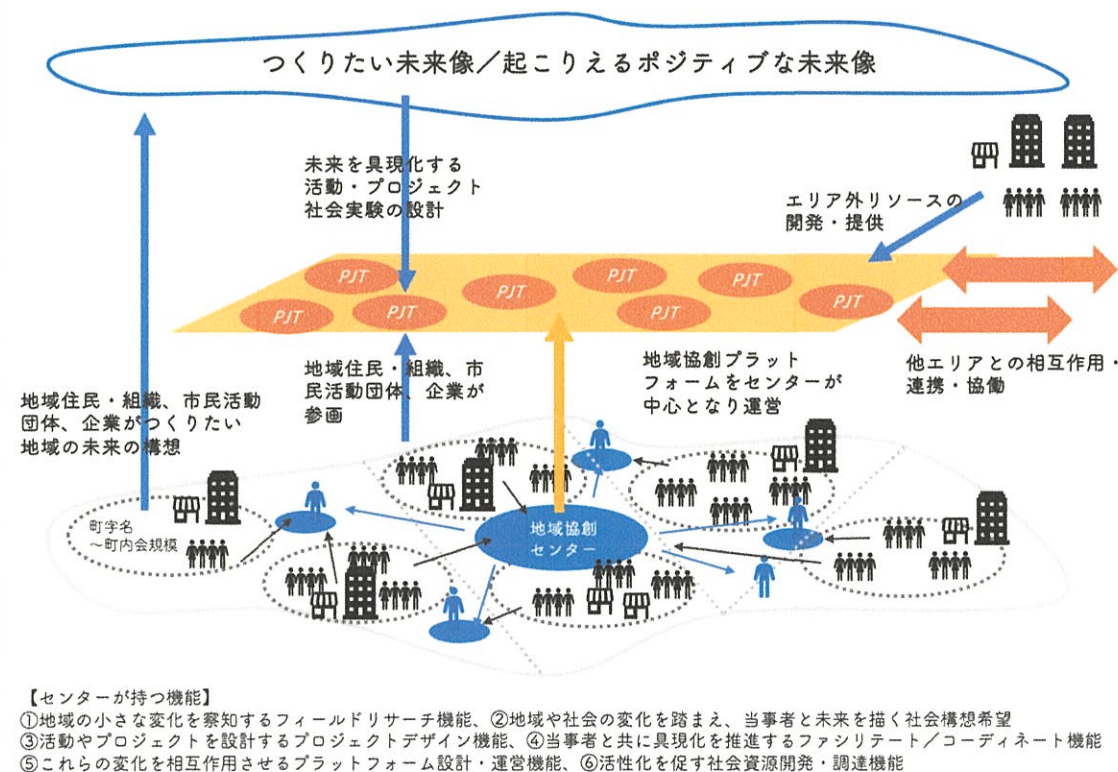
■2025 年度実施事業

事業 4：多様な活動を生むコミュニティリーダー育成講座の開講

発掘したコミュニティリーダーの活動を支えるだけではなく、次のリーダーを育成し続ける仕組みを実装すべく、コミュニティリーダー育成講座を開講する。育成したリーダーたちが自ら大谷・小鹿で暮らしを豊かにする活動や事業を立ち上げることを目指す。

事業 5：協創プラットフォームの実装・活動支援

2024 年度に設計した協働プラットフォームを形にしながら、コミュニティリーダーたちを中心とした多様な活動の支援を行う。



6 市と協働をする理由（団体独自で行うのではなく、市と協働することが必要な理由や、市と協働することによって得られる効果等を記載してください。）

当団体は、静岡市駿河区小鹿に2022年10月に「みんなのチャレンジ基地ICLa」を開設した。設立当初より、大学生が地域社会でチャレンジする際の中間的拠点となることを目標に運営し、現在は月延べ150人～200人が訪れ、開設1年間で大小30件以上のプロジェクトが生まれてきた。

しかし、運営する中で「大学生のため」に限定することによって、大学生自身の視野が狭くなったり、結果的に地域社会への波及効果が薄くなったりしてしまうことを痛感した。そのため、2024年1月に「大学生が多様な人と共に地域を変革する協働（協創）プラットフォームとなる」という新たな方針を掲げ、静大生が多く居住する大谷・小鹿地区での活動を展開していく段階に来ている。

大谷・小鹿まちづくり推進課と協働することで、当団体が持つ大学・大学生の関係性を活用しながら、大谷・小鹿まちづくり推進課や地域住民が抱える困りごと、実現したいことをプロジェクトとして形にすることで、大学生が多様な人と共に地域を変革することが前進すると期待した。同時に、その過程で出会い、共に活動するであろうコミュニティリーダーとのネットワーク形成は、大谷・小鹿まちづくり推進課が今後再開発を進める上で、重要な社会資源になると考える。双方にとって相乗効果となるような協働を生み出したい。

7 団体の担う役割

- コミュニティリーダー発掘のためのインタビュー型アウトリーチ／取材記事の編集・冊子づくり

- コミュニティリーダーを中心とした勉強会の企画・開催

第1回 協働プラットフォームによるまちづくり（一般社団法人おやまちプロジェクト代表理事 高野雄太氏）

第2回 若者とNPO・地域をつなぐ（NPO法人アクションポート横浜代表理事 高城芳之氏）

- 協創プラットフォームの構想・設計（大谷・小鹿まちづくり検討課と協議）

- コミュニティリーダー養成講座の企画・運営

- コミュニティリーダーによる活動の支援

- 大学生・大学とのコミュニケーション・調整

8 静岡市に担って欲しい役割

- 自治会・町内会との調整・連携のサポート

- 大谷・小鹿地区への情報発信等を行う際の広報支援

- 協働プラットフォームの構想・設計（NPO法人ESUNEと協議）

- 大谷・小鹿まちづくり検討会議との接続（コミュニティ分科会での連携など）

9 事業計画・実施スケジュール（協働パイロット事業で実施する事業のスケジュールを記載してください。2年間にわたる事業を検討している団体は、2年目の計画についても記載してください。）

■1年目（2024年度）

2024年7月 大学生取材チームの発足、取材先交渉・取材

～2024年10月 約3ヶ月で10名～15名のコミュニティリーダーの発掘を目標としたい

2024年11月 コミュニティリーダーを中心とした勉強会開催①

2024年12月 コミュニティリーダーを中心とした勉強会開催②

2025 年 1 月 コミュニティリーダーの編集冊子デザイン／協創プラットフォームの構想・設計

2025 年 2 月 コミュニティリーダーの編集冊子発行

2025 年 3 月 報告書作成・次年度に向けた準備

2025 年 4 月～7 月 ※この間は事業期間ではないが、コミュニティリーダーをはじめ住民発案の企画があった際は「みんなのチャレンジ基地 ICLa」の自主事業として活動支援する

■2 年目（2025 年度）

2025 年 8 月～9 月 コミュニティリーダー養成講座企画調整・広報

2025 年 9 月～2026 年 1 月 コミュニティリーダー養成講座実施

2025 年 9 月～2026 年 2 月 協創プラットフォームの試験運営／活動支援

2026 年 3 月 総括フォーラム／報告書作成

10 協働パイロット事業終了後の展望・今後の活動展開（協働パイロット事業終了後にどのように事業展開をしていく予定か記載してください。）

大谷地区において、より地域住民の生活に近いコミュニティ・プレイスとなる拠点が必要となるため、資金調達を実施し、新たな拠点を開設したい。

暮らしと密接に関わったサービスを提供しながら、コミュニティ活性化につながる支援を行う拠点として、以下の先進事例を参照して検討・開発を進めたい。

■まちな家事室 泉北ラボ（大阪府堺市）

■港南台タウンカフェ（神奈川県横浜市）

■喫茶ランドリー（東京都墨田区）

11 実施体制及び主要スタッフの経歴

●事業責任者 天野浩史

大正大学地域創生学部助教／NPO 法人 ESUNE 代表理事

1991 年愛知県生まれ。静岡大学大学院人文社会科学研究科臨床人間科学専攻修了。修士（臨床人間科学）。専門は臨床社会学、社会デザイン論、非営利組織論。

「小さな共創的実践から、社会を変え得る大きな協創まちづくりはいかにして可能か？」をテーマに、市民主体のまちづくりの方法、共創・協創プロセスやプラットフォームの設計、地域におけるコミュニティ・プレイスの運営、地域や組織におけるコミュニティリーダーやソーシャルイノベーションの担い手の育成に関する研究・実践に取り組む。

大学入学と同時に環境保全 NPO で活動を開始。大学 4 年時に中間支援組織を立ち上げ、大学卒業後、求人メディア会社を経て、2016 年 2 月に NPO 法人 ESUNE を設立し、代表理事に就任。2022 年 4 月より現職。

大正大学地域構想研究所研究員、静岡産業大学総合研究所客員研究員、静岡産業大学経営学部非常勤講師、公益財団法人ふじのくにコミュニティ財団理事、静岡市大谷・小鹿まちづくり検討会議委員、藤枝市商業まちづくり懇話会委員。

●コーディネーター 今坂茉鈴

静岡大学グローバル共創科学部 2 年生／みんなのチャレンジ基地 ICLa スタッフ

新潟県南魚沼市出身。高校時代から地域社会で探究プロジェクトに参画し、まちづくりに関心を持つ。大学入学後はまちづくりを学びながら、みんなのチャレンジ基地 ICLa のスタッフとして活動。2023 年度は大谷地区モビリティサービス共創プロジェクトに参画し、主に大谷での飲食店との交渉やトライアルイベントの企画を実施。

●学生取材チームスタッフ 4 名を予定

また、主要スタッフではないが、事業運営上、特に大学関連の連携で以下の 2 名と連携する。

●静岡大学学生支援センター教授 宇賀田栄次 氏

静岡大学でみんなのチャレンジ基地 ICLa に関する案件を担当。本事業では、静岡大学との連携時の調整等を相談予定。

●一般社団法人草薙カルテッドディレクター 小林祐介 氏

コラボレーション・スペース Takt など、大学生と企業との連携に関する案件を担当。本事業では、静岡県立大学や常葉大学との連携時の調整等を相談予定。

12 その他アピールしたいこと（団体の専門性や先駆性、創造性など、特に団体としてアピールしたいことを記載してください。）

2013 年の設立以来、一貫して大学生によるまちづくり活動の支援を行ってきており、大学生の力を最大限引き出しながら地域課題解決やプロジェクト推進するための方法論を確立している。また、本事業に関わる天野、今坂は静岡大学の OB や現役生であり、大谷・小鹿地区は生活空間として過ごしてきた（過ごしている）。そのため、住民との共通の話題を作りやすく、関係構築も行いやすいことが期待できる。加えて、当団体が静岡大学、静岡県立大学、常葉大学とは事業連携で関わりがあるため、本協働課題の地元大学と連携した地域力向上を、複数大学の力を借りて推進できる。

また、事業責任者の天野は研究者でもあり、コミュニティマネジメント、地域プラットフォームなどの共創プロセス設計が専門領域でもある。ゆえに、アカデミックの立場からも本事業を捉えることで、より説得力と効果の高い交流プラットフォームづくりやコミュニティデザインプロジェクトを生み出すことが期待できる。